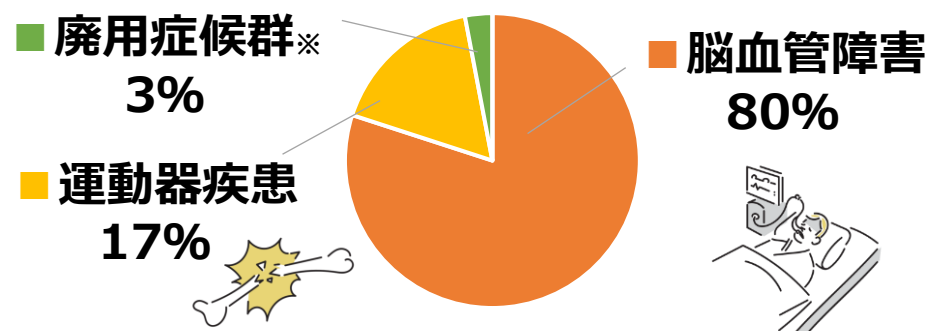


回復期リハビリテーション病棟 診療実績(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

入院患者数 **127**名



全国平均は脳血管疾患45%、運動器疾患47%となっておりますが、当院は脳血管の方が80%と脳血管疾患の方を多く受け入れております。

※廃用症候群とは、長期間の安静状態や運動量の減少によって身体機能が衰え、心身の様々な機能が低下してしまう状態

平均在院日数

適切な日数

77.1日

(全国平均75.9日)



回復期リハビリテーション病棟へ入院する対象者は、厚生労働省が疾患などの条件や入院期間を定めております。脳血管疾患は、最大180日。大腿骨や骨盤などの骨折は、最大90日。廃用症候群も最大90日となっています。

脳血管疾患の入院者数が多い中、在院日数が短いのは当院の強みとなっています。

在宅復帰率

高い復帰率

85.7%

(全国平均77.5%)



回復期リハビリテーション病棟においての「在宅復帰」とは、自宅はもちろんのこと居住系介護施設（グループホームや有料老人ホームなど）に退院したことを指します。在宅復帰率は「在宅・居住系介護施設・有床診療所÷死亡や再入院・転院を除く退院患者数」で表されます。

1日の平均リハビリ時間

安心の提供量

2時間14分 / 6.74単位

(全国平均2時間6分/6.18単位)

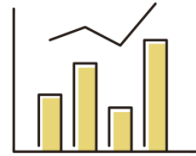
リハビリテーションを実施する時間を意味しており、1単位は20分です。回復期リハビリテーション病棟では脳血管疾患の方が1日最大9単位、運動器疾患、廃用症候群の方が1日最大6単位リハビリ実施可能となっています。

実績指数

安心の実績

45.8

(基準値 40以上)



厚生労働省により、“質の高いリハビリを提供している回復期リハビリテーション病棟”を評価する方法として『実績指数』というものが用いられています。

実績指数は、入院している期間が短ければ短いほど、またADL（日常生活動作）の改善度が大きいほど高くなります。厚生労働省の定める質の高い病院の基準として40以上を基準とされています。

FIMとは

機能的自立度評価表（Functional Independence Measure）の略で、日常生活動作をみる検査法です。運動項目13項目、認知項目5項目で構成されており、各1～7点の7段階で評価します。合計点が高いほど日常生活の自立度が高いことを示します。

重症患者率

幅広い受け入れ

49.3%

(全国平均44.6%)



入院された患者さんのうち、日常生活能力が著しく低下してしまっている重症者（入院時に機能的自立度評価表（FIM）得点で55点以下）の患者さんを受け入れている割合で表されます。

重症患者改善率

効果のある治療

60.7%

(全国平均54.6%)



入院時に重症であった患者さんが、退院時に症状が大きく改善（入院時と比較して、退院時に機能的自立度評価表（FIM）総得点で16点以上改善）した割合で表されます。

家屋調査実施率

在宅支援

91%



自宅退院を想定して、患者さん・セラピスト・ケアマネージャー・福祉業者が集まり家屋調査を実施します。専門的な視点で改修案や福祉用具の設置を行い、自宅退院後もスムーズに過ごせるよう退院前に行います。在宅に戻られる予定のほぼすべての方に、家屋調査を実施しています。

装具使用にて 早期歩行訓練開始者

早期のリハビリ

71%



装具使用にて早期に歩行することはADL改善に良いと言われています。当院では安全に配慮しながら、積極的に早期歩行訓練を実施しています。

運転再開支援実施後 運転再開率

当院の強み

70%



当院では専門の運転再開支援チームを立て、熟練スタッフによる認知神経心理学検査やドライブシュミレーター、連携している自動車学校へ行き、実車評価を行っています。運転再開支援にご相談された方の7割の方が免許センターより運転再開の許可を頂きました。

経口摂取移行率

食事支援

52%



入院時にお口から食べられなかった患者さんがリハビリによって少しでもお口から食べられるようになった割合です。3食お口から食べられるようになったり、経管栄養と経口摂取を併用している患者様もいます。

患者満足度

患者さんに寄り添ったケアを提供しています

84.9%



患者満足度調査の結果として
満足度は良い、出来ている、されているを
合わせて割合

患者さんからのご意見

温かい言葉に私たちが救われます



- 皆様のやさしさ、明るさに救われました。ありがとうございました。
- みんな親切で助かっています。ありがとうございます。
- みんな丁寧に嫌な顔せず丁寧に親切に接してくれています。

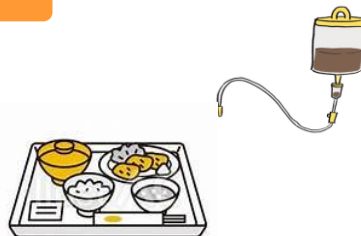
回復期リハビリテーション病棟 診療実績（令和6年4月1日～令和6年9月30日）

経管栄養離脱率（n = 13）

患者さんの努力と治療の成果

38.8%

（全国平均27.6%）



口から十分に食べられずに、経管栄養が必要な状態で入院された患者さんのうち、退院までに3食口から食べられる状態で退院された患者さんの割合になります。

膀胱カテーテル離脱率（n = 15）

効果のある治療

27.8%

（全国平均49.7%）



膀胱カテーテル留置の状態で入院された患者さんのうち、カテーテルを抜くことができ、自排尿の状態で退院された患者さんの割合になります。

回復期リハビリテーション病棟協会が2024年2月に発表した「回復期リハビリテーション病棟の現状と課題に関する調査報告書」内の全国平均値（推定）を、一部当院の実績と比較しています。